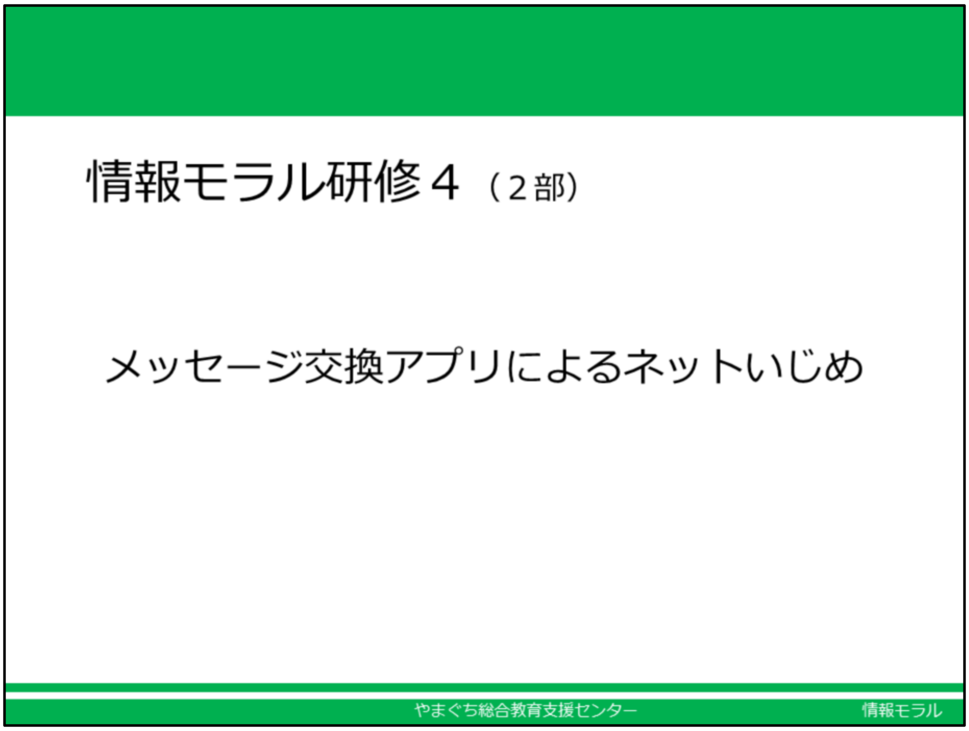
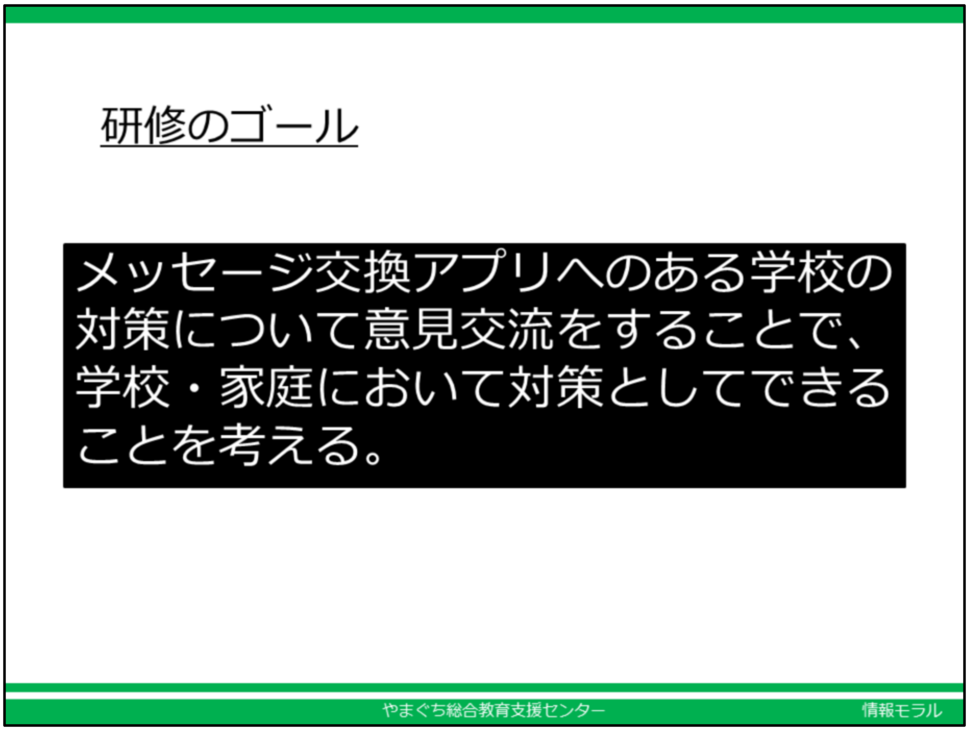
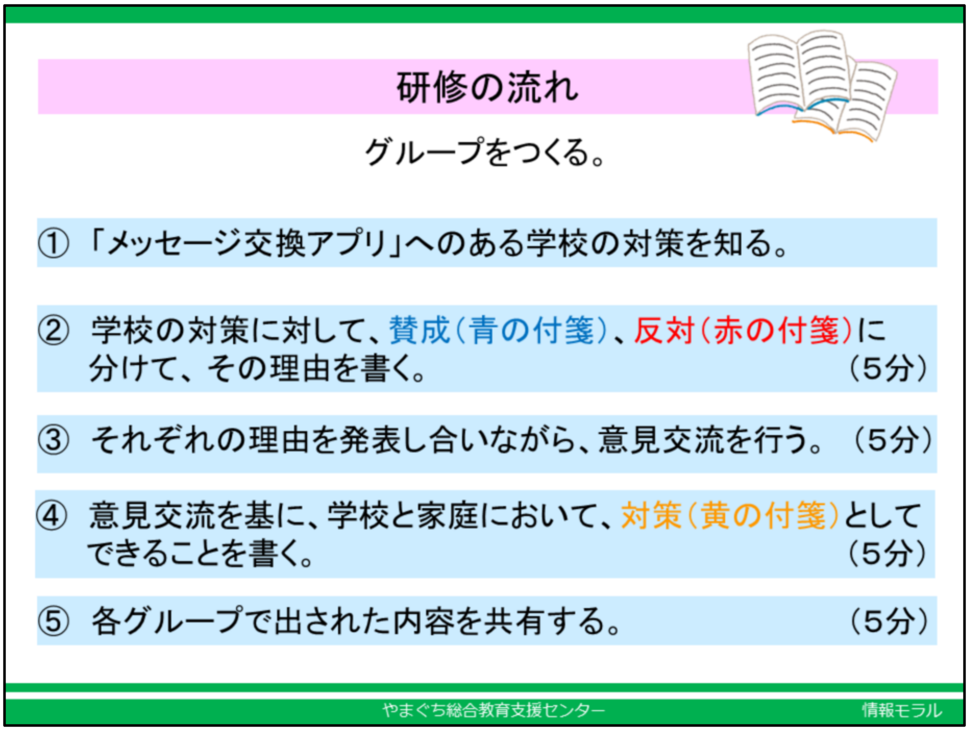


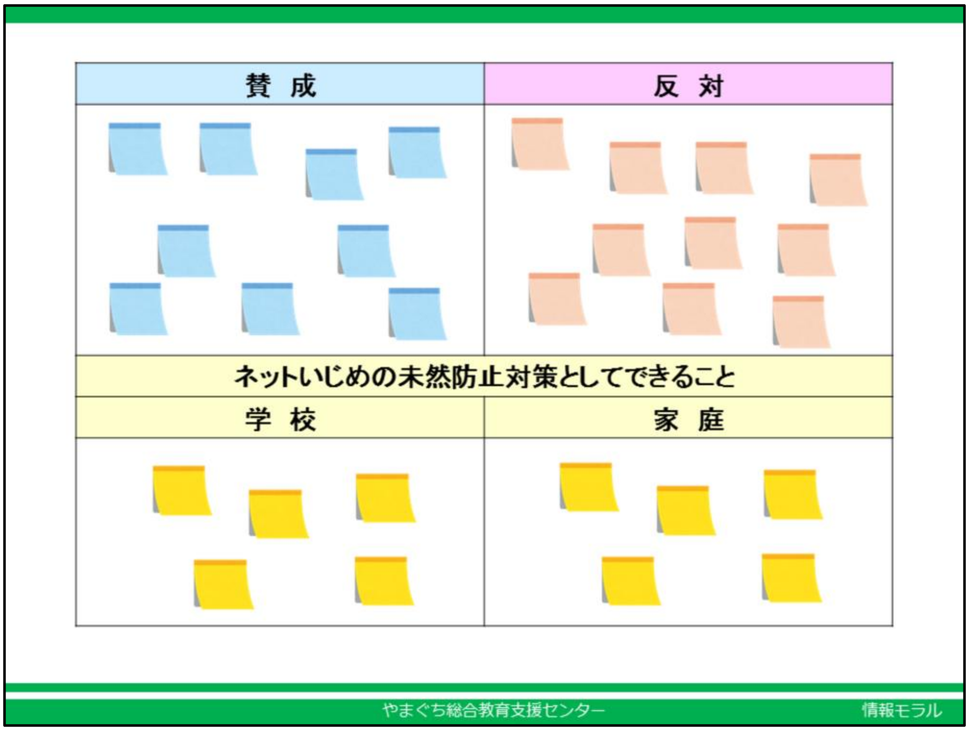
情報モラル研修会を始めます。
テーマは「メッセージ交換アプリによるネットいじめ」です。
（★）



研修のゴールは、「メッセージ交換アプリへのある学校の対策について意見交流をすることで、学校・家庭において対策としてできることを考える。」です。
メッセージ交換アプリによるいじめに対し、学校、家庭ができることを考えていきます。
（★）

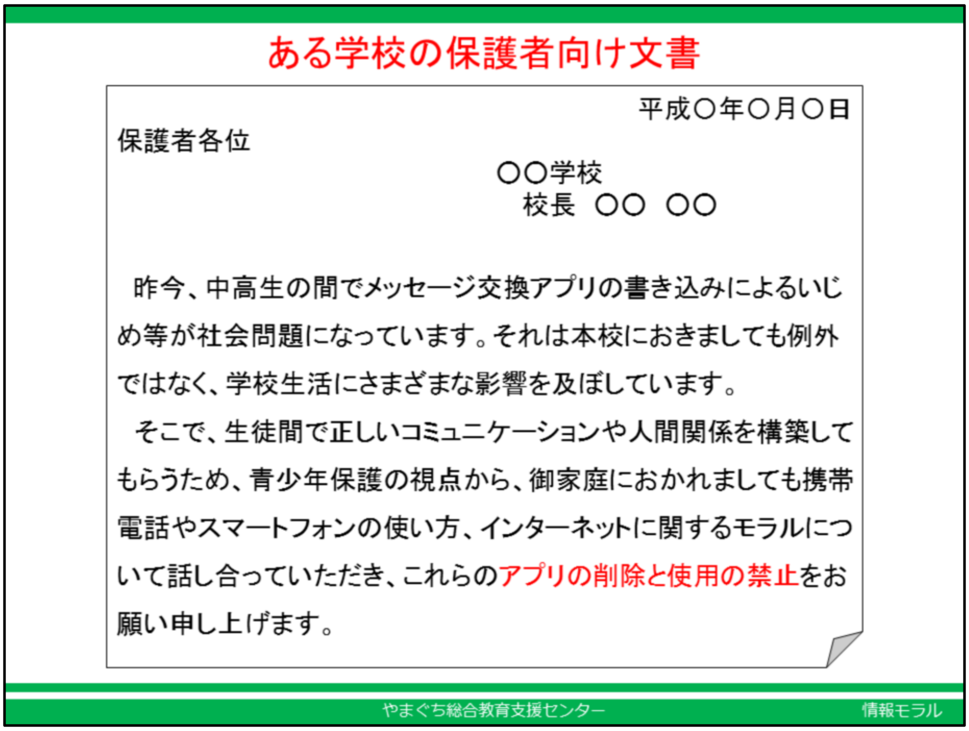


研修の流れです。
研修はグループで行いますのでグループを作ってください。
まず、ある学校が保護者向けに配付した「メッセージ交換アプリへの対策文書」をお見せします。
次に、その学校がとった対策に対して、賛成、反対両方の立場で、その理由を書いてください。賛成の理由は青、反対の理由は赤の付箋です。
その後、考えを発表し合います。
意見交流を基に、学校と家庭において、対策としてできることを考えます。考えは黄色の付箋に書いてください。
各活動の時間は5分です。
（★）

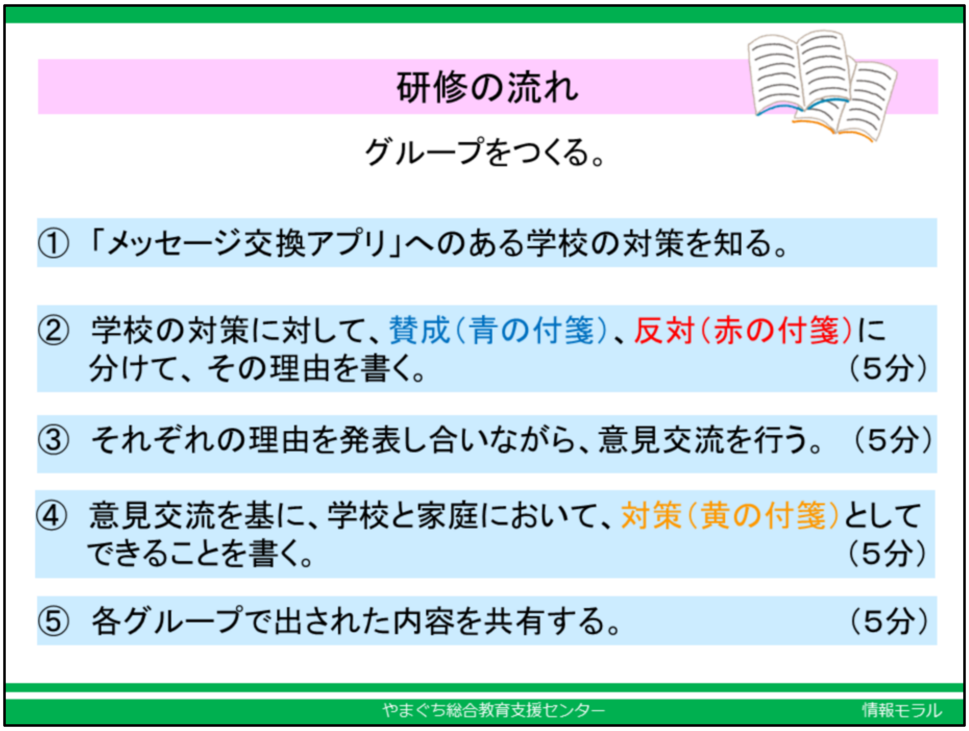


考えの交流は、画面のようなワークシート上で行います。
（★）

では、ワークショップを始めます。
ある学校では、メッセージ交換アプリによるトラブルが年々増加し、その早急な対策を保護者から迫られていました。
そこで検討した結果、次のような文書を各家庭に配付しました。
（★）



この文書は、実際に、ある学校がメッセージ交換アプリへの対策措置として各家庭に配付した文書を部分的に改編したものです。
要旨は変わっていません。
それでは1回読みますので、この対策に対する賛成、反対両方の理由を考えながら聞いてください。
「昨今、中高生の間でメッセージ交換アプリの書き込みによるいじめ等が社会問題になっています。それは本校におきましても例外ではなく、学校生活にさまざまな影響を及ぼしています。そこで、生徒間で正しいコミュニケーションや人間関係を構築してもらうため、青少年保護の視点から、御家庭におかれましても携帯電話やスマートフォンの使い方、インターネットに関するモラルについて話し合っていただき、これらのアプリの削除と使用の禁止をお願い申し上げます。」
（★）

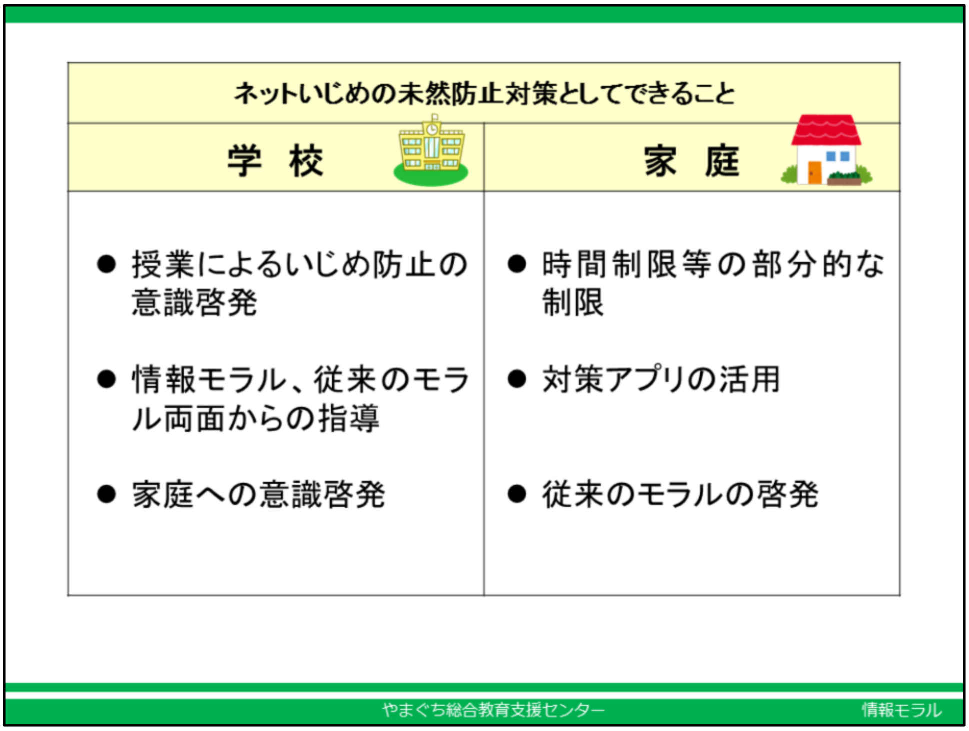


それでは、賛成の理由、反対の理由、両方お書きください。
時間は5分です。
（※5分経ってから）
それぞれの意見を交流してください。
時間は5分です。
（※5分経ってから）
（★）

賛　成	反　対
・一斉の取組は効果的	・根本的解決が必要
・ある程度の強制力が必要	・別の形でのフラストレーションの発散を懸念
・現在、困っている子どもにとって一定の救い	・時間制限等、別の手段考慮

やまぐち総合教育支援センター　情報モラル

（※ワークショップの後）
先生方に賛成、反対それぞれの理由を考えてもらいました。
では、実際に、その学校の対策に対して、家庭から挙がった主な意見を紹介します。
賛成の意見としては、
（★）全家庭で共通した取組をしないと解決されないので、こうした一斉の取組は効果的だと思う。
（★）注意喚起だけでは解決に至らない。ある程度の強制力をはたらかせて全体的に取り組むのはよい。
（★）現在、誹謗中傷を受けて困っている子どもには一定の救いになるのではないか。
反対の意見としては、
（★）ツールを禁止しただけでは根本的な解決に至らない。
（★）禁止することによって子どものフラストレーションは別の形で発散されるのではないか。
（★）禁止という最後の手段の前に時間制限等、別の手段が考えられないか。
というような意見が出されました。
（★）



次に、学校と家庭において、ネットいじめの未然防止対策としてできることを考えましょう。
時間は5分です。
（※5分経ってから）
それでは各グループで出された意見を手短に紹介してください。
（※各グループの発表が終わってから）
学校、家庭においては、先生方からも出されたように、次のようなことが主にあると考えられます。
学校では、
（★）メッセージ交換アプリで実際に起こったいじめ事例を基にした授業を行い、いじめ防止の意識啓発を図る。
（★）情報モラルとともに、従来のモラルも高めるようにする。
（★）家庭への意識啓発を図る。
家庭では、
（★）時間制限等の部分的な制限を家庭のルールとして設け、実行する。
（★）対策アプリにより、子どものメッセージ等について適切に把握する。
（★）学校と連携しながら、従来のモラルを高めるようにする。
などが考えられます。何よりも学校と家庭とが連携していくことが重要です。
（★）